

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校

学校番号	26
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇専門教育推進部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生の説明がわかりにくい(7.7%)・勉強の方法がわからない(21.2%)などの結果から「わかりやすい授業」・「魅力ある授業」の展開と学習方法の指導の工夫が求められている。</li> <li>生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けてのキャリア教育の充実が図られている(生徒88% 保護者78%)と高い評価を受けており、専門教育においては各学科・類型で目指す資格取得の高い取得率を目指すことが求められている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学科・類型の目標とする検定資格の取得率向上と実践教育の推進 (1) 「分かる授業」・「魅力ある授業」等アクティブラーニング導入による指導方法の実施 (2) 学科・類型の目標とする検定資格の取得 (3) 地域社会との連携・地域教育力を活用した実践教育の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育推進部全体として取り組む</li> <li>学科主任と各類型長との連携</li> <li>科目担当者間の連携</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業展開の工夫、遅進者への手立てや検定資格取得対策の実施 (2) 大学・地域・企業と連携した特別講座の実施	(1) 学科・類型の目標とする検定・資格の取得者数 (2) 成果物や参加した生徒の感想・アンケートによる把握	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
◇授業進度を習熟度別にし、個々の理解度に応じた方策を科目「簿記」において実施 ◇検定資格取得に向けた対策として、実習室の開放及びオンライン学習支援の実施 ◇総合ビジネス科：地元企業との連携講座（商品開発）大学との連携講座（起業家教育講座）等 情報科：社会人講師による出前講座 の実施	①習熟度の実施により、授業での遅進が解消されたか。 ②目標とする検定資格取得ができたか。 ③専門的な知識や技術を身に付けると同時に、それらを活用し地域社会に貢献する力を発揮できたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
11 成果・課題	○コロナ禍対応により例年と異なる実施方法となったが、地元企業や大学等との連携講座を実施することができた。連携講座では、地域理解を深めるとともに、日々の学習内容の重要性や意義を認識し、学習意欲の向上につなげることができた。 ▲コロナ禍の影響で、今年度は後期（11月～2月）に、各学科・類型で目指すべき検定・資格試験が集中した。2月に学校全体で専門教育の特別編成授業を実施予定であるが今後更に科目担当者間の連携を密にし、検定資格の取得率向上に向けた対策を図る。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の特徴を生かし、全ての学科において実施した「地元企業・学校・地域との連携事業」の内容の充実を図り実施する。</li> <li>科目担当者間の連携強化による指導方法の共有化を図り、資格取得率の向上を図る。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月28日

【意見・要望・評価等】
・ビジネス教育を通して、正解のない課題に取り組みながら、考え抜く力の育成、社会に有意な人材育成に努めること。

- ・高校3年間を通して、将来の地域社会人として、地域の担い手となり得る人材及び社会からの信頼を勝ち取る土台を築く期間となることを期待している。
- ・地元企業や大学等と連携しながら、商品開発のコンセプト立案から商品開発、広告宣伝、販売までの実務を学習することは、商業高校の役割でもある。今後も継続してほしい。
- ・アプリ開発が目的でなく、アプリ開発等を通して、チームワークの醸成やプログラミングに関する知識、技術及び物事を論理的に考える力の育成が大切である。
- ・3年間の商業や情報の専門教育を通じて体系的な学びを進め、その集大成としての3年生の「課題研究」発表会は大変意義深いものがある。（コロナ禍が一段落してから、）この発表会を学校内に止めず、中学生や地域社会に広く知ってもらおう機会を設けると良い。